

アリーナを核とした まちづくりランドデザイン

SAGAスポーツピラミッド構想の推進

アリーナ開発にとどまらない エリアマネジメント によるまちづくり

佐賀バルナーズとも連携し歩きたい ウォーカブル なまちづくりへの挑戦



歩こう。
佐賀県。



© B.LEAGUE

SAGAアリーナ 佐賀県

#エリアマネジメント #健康増進 #まちなかウォーカブル
Keyword !



ビジョンの
仮説構築

『SAGAスポーツピラミッド構想』（SSP構想）の実現

- アリーナ建設・国スポの開催をゴールとするだけでなく、SSP構想をまちづくりの中心に
- 佐賀県によるスポーツ振興の文脈に則り、SAGAアリーナを中心とした面的なエリアマネジメントまでを含めた運動性のあるハード整備を計画
- その一端で、ウォーカブル（歩きたい）なまちづくりから健康増進等へ施策を展開



ビジョンの
実現に向けて

まちづくりの中心となる存在“県内プロスポーツチーム”との連携

- アリーナを、県民の活力、経済の好循環、まちづくりの中心と捉え事業を推進
- SAGAアリーナは「スポーツ・健康+エンターテインメント」を共通コンセプトとしている
- 佐賀市とも連携し、佐賀駅を中心に南北軸でゾーニング。
- 北側に「サンライズストリート」を形成



PoC

歩道の拡幅

- 佐賀市にて片側2車線であるアリーナへ向かう道路を片側1車線化し、歩道を拡幅することで歩きやすい環境を整備した
- 佐賀バルナーズなどプロスポーツチームと連携したり、駅から歩いて約1Kmlに「歩かないで濡れない映えスポット」を設置。歩くインセンティブとなる仕掛けづくり



事業開発

歩く楽しみ。歩く文化づくり

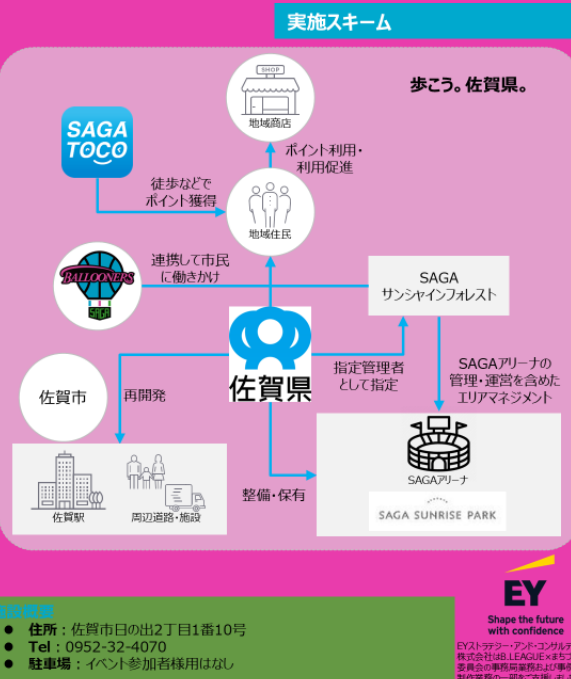
- 「歩こう。佐賀県。」に通じるSAGAサンライズパークストリートフェスタや、ビアフェス等のイベントの実施
- 佐賀市にて空き家を改修し、カフェ、トイレ、ショップ等の交流拠点を整備
- 公式ウォーキングアプリ「SAGA TOCO」を通じたアクティビティにより獲得したポイントを県内の協力店にて利用可能



事業育成

発信力の強化

- SNSの活用やPVの作成
- 「歩こう。佐賀県。」シンポジウムの開催等による歩くライフスタイルの周知
- バルナーズと協力した取り組みの実施による話題性



特徴

SSP構想に基づく大規模・長期的ビジョン
佐賀バルナーズとも連携したまちづくりのランドデザイン

SSP構想×Bクラブ

まちづくりの中心として、佐賀バルナーズなどの県内クラブが活躍
施策展開時のクラブ連携により、地域に好循環を生んでいる

運動性のある ハード整備

歩くライフスタイルの形成に向け、片側2車線道路の一車線化及び歩道を広げた歩車分離のウォーカブルな環境の整備

歩くライフスタイルの 形成

車ではなく、徒歩や公共交通機関などを利用して来場してもらう、「アリーナ×歩く」事業を推進

SAGAスポーツピラミッド構想 《SSP構想》

- 佐賀から世界に挑戦
- アスリートがスポーツで食べていける社会
- スポーツを活かしたビジネスシーンが広がる社会

SSP構想の推進

佐賀県は、スポーツの真の価値を大切に、スポーツのチカラを活かした世界に誇れる人づくり、地域づくりを進める、「SAGAスポーツピラミッド構想」（SSP構想）を、官民一体で推進しています。

条例の制定

佐賀から世界に挑戦するアスリートを育成し、多くの県民が「する、観る、支える、育てる、稼ぐ」のそれぞれの関わり方で広くスポーツに携わり、アスリートがスポーツで食べていける社会、スポーツを活かしたビジネスシーンが広がる社会を目指しています。2025年3月には、「SAGAスポーツピラミッド構想推進条例」を制定しました。条例では、練習拠点を整備するにあたっては、競技の育成方針や大会・合宿の開催、スポーツビジネスにおける活用等の将来的な視点を持って、多角的に検討するよう明記しています。



公民連携のポイント

- 人材連携
- 法制度・許認可
- 財源
- 土地の所有・管理
- 施設の所有・管理
- 運営方針
- 市民との合意形成
- リスク管理
- 広報・PR

アリーナ開赛后に街の姿が変化

SAGAアリーナもまさにこの思想の下、単なる巨大体育館ではなく、エンタメアリーナとして「観る」「稼ぐ」にこだわって整備し、これまでBリーグ、SVリーグなどスポーツシーンはもちろん、MICEやライブなどのエンタメなど多彩なイベントが開催されています。SAGAアリーナ開業後は、最寄りの佐賀駅からアリーナまでの人の流れや、大勢のファン・家族連れが飲食を楽しみながら交流する姿など、街の姿も大きく変化しています。

新しいスポーツシーンの創造

SSP構想の下、アリーナが地域経済を回し、そこで生まれた収益が、中高生アスリートの育成や、社会人アスリートのセカンドキャリア支援に回るような仕組み構築するなど、佐賀から新しいスポーツシーンを創造しています。

実現までの課題・失敗談

- 1. 駐車場ニーズの高さ**
車社会のため、アリーナ開業直後はもちろんのこと現在も要望の声がある
- 2. 飲食店・ホテルが少ない**
サンライズストリート上に飲食店が少なく地元店の閉店時間が早い。宿泊できるホテルも少ないため、宿泊客による経済効果が最大化できていない



現時点での成果

- 1. 魅力的なまちづくり**
行きたい・住みたいエリアとして価値が向上。県外からの共感や感動が、佐賀県民の誇りに
- 2. 付加価値増から税収増へ**
佐賀駅周辺の地価が上昇。税収の増加し、更なるまちづくり事業への公共施策に繋がっている
※令和6年 公示地価、基準地価 情報

B.CLUBが発揮するチカラ

ヒトを動かすチカラ

行政はアリーナと駅の間をウォーカブルな街として整備し、クラブはHPやSNSにて「歩く」について発信し続けることで、歩く文化づくりを創出

行政と共に突破するチカラ

SSP構想により佐賀県がまちづくりを先導。佐賀市とも連携して、都市開発を推進

